

平成21年度 第2回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

1. 開催日時 平成22年3月18日(木曜日)10時00分～11時45分
2. 開催場所 市役所5階 501会議室
3. 出席者
(1)委員：新山委員・小川委員・佐藤委員・石神委員
(2)市側：長井部長、松永文化スポーツ振興課長・犬塚副主幹・三石・後野
欠席者
下津谷委員長(体調不良のため)
4. 開会
5. 副委員長あいさつ(※委員長欠席のため、新山副委員長が議事進行も代行)
6. 生涯学習部長あいさつ
～生涯学習部長所用により退席～
7. 議題等
会議録署名人に佐藤委員を指名。

【報告事項】

- (1)平成21年度文化財保護主要事業について
事務局より資料に沿って報告
質疑なし
- (2)国史跡下総小金中野牧跡周知普及事業について
事務局より資料に沿って報告

委員：とっこめ桜まつりの中で競馬学校の協力とあるが、どういう形のものであるか。

事務局：馬の提供及びその世話一切という形での協力である。昨年は木曾馬を提供いただいたが、今年はポニーを提供いただく予定である。JRA(競馬学校)も地域に協力という気持ちでやってくれているようである。

課長：まつりでは牧関連のミニ展示も行ったが、会場に来た若い親子連れが興味を持ってくれた。何だろうというところから、説明を聞いて、捕込に見学しに行くという姿も見られた。桜を見に来た人たちが予想を超えて興味を持って来てくれた姿が目立っており、良かったと思う。JRAは全くの無償協力で、スタッフも動員していただきありがたい。

委員：こういう協力体制のものでは成功例となるのではないか。乗馬はどこに行っても子どもには人気のようだ。まつりも段々と定着してきた感じがある。

課長：市民協力による運営という点が大きいのではないかと考える。柔軟な発想で市だけでは考え付かないことも多々ある。バスツアーなどもどちらかというと史跡に興味の重きを置いていない人が、史跡を知って興味をもって帰るといふ、寄席などもそうした視点である。

委員：今後、継続していくには行政側である程度枠組みを抑えておく必要はあると考える。あまり広げすぎると本来の目的がぼやけてしまう。民の感覚と市の目的の兼ね合いが大事であるが、報告を聞いているといい状態であるようだ。周知普及実行委員会もバランスの取れた構成であると思う。

課長：周知普及実行委員会も立ち上がったのはありがたい。事業についてはこの組織で、趣旨目的に合致したふさわしい内容であることを検討していただいている。

委員：こうした形でやっているのは近隣でも少ないと思う。

委員：事業は一回だけで終わらせることなく続けることが大事だと思う。盛り込みすぎ

て息切れのないように進めていただきたい。

委員：国史跡周知品は「ばふん饅頭」以外に何かあるのか。

事務局：今のところ「ばふん饅頭」だけである。今後いろいろアイデアが出れば取り入れていきたい。

課長：今後まつりが定着していけば、周知品のアイデアもいろいろご提案いただけるのではないかという期待もある。

委員：春のイベントは外に出たい人が多くなる分、それなりに人は集まってくると思う。是非とも続けていただきたい。

副委員長：桜をきれいだと全体を眺めるのもいいが、花びらがどんな形になっているのか細かく観察するのも、ひねりがあるのではないかと思う。

(3) 千葉県指定文化財に係る調査対象文化財について

事務局より資料に沿って配布状況を報告。

→県が各市町村の文化財状況を把握し情報収集をするものである。

委員：この調査は各市の文化財を県の指定文化財にするためのものか。

事務局：そこまでのものではなく、県で県下の文化財の基礎資料を整備したいとのことで県内市町村に照会をかけたものである。

(4) その他

① 文化財探検隊 鎌ヶ谷市文化財めぐりにについて

② 事業者負担による向山No.1 遺跡の本調査実施について

事務局より資料に沿って報告

→平成 22 年度予算については事業者負担調査費受け入れの予算枠を設定した。

追加説明

市ホームページの中の文化財の説明について写真を付けて、説明文も少し詳しくした。また個人所蔵を除く文化財については地図で位置確認もできるようにした。

委員：向山No.1 遺跡本調査の調査次数は

事務局：第 6 次調査である。

委員：将来的な展望であるが、街中を歩く人も増えてきて、市外から来る人も多くなると思うので、文化財めぐりの見学コースガイド的なものの作成を検討していただきたい。

委員：文化財探検隊のコース選定はどうやって決めたか。ガイドはどちらが行ったのか。

事務局：県の事業で、県がコースを決めたものである。ガイドは市職員が同行して行き、県職員も 3 名同行した。この事業は県内の市町村を選定して行っているもので、今回は鎌ヶ谷市が会場で実施されたものである。

副委員長：遺跡の所在はどのように確認されるものなのか。

事務局：昭和 50 年代に遺跡の分布調査を行った成果が市内遺跡分布図としてまとめられており、それに基づいて所在を確認し、現地踏査や調査により取扱いの判断をする。なお、今後の会議では国史跡の整備についても考えていきたいので、来年度からは、市外の国指定史跡の整備状況についての視察も含めた実施を予定していきたい。

【終了】

以上会議の経過を記載し、間違いがないことを証するため、次に署名する。

平成 22 年 6 月 4 日

署名人 佐藤 武雄 ㊟